別添9　事後評価分析書

港湾名	青森港	地区名	本港地区	事業主体	青森県	青森市	
計画期間	平成19年度～平成23年度						

1）事業の実施状況	当初計画通り実施した事業	港湾環境整備施設整備事業（護岸の改良、遊歩道の整備） 振興促進事業（イベント等助成事業）
	当初計画から変更した事業 （変更した内容）	港湾環境整備施設整備事業（沈下対策） 振興促進事業（ウォーターフロント活性化調査検討業務）
	変更した理由、目標、数値指標への影響等	（変更理由）護岸改良に伴う背後地の沈下対策工を実施。また振興促進事業においては八甲田丸及びその周辺の活性化に資する調査検討を実施。 目標、数値指標への影響等は無し

2）みなと振興計画に記載した数値目標の達成状況	指標		単位	達成度	達成見込みの有無			効果発現要因
					達成	達成見込み	未達成	総合所見
	指標1	（アスパム入場者数）　1,400	千人/年	△		●		アスパムの入場者数は、H19：1,284千人からH22：1,050千人と減少傾向にあったが、H23には1,148千人と増加に転じた。主な要因は東北新幹線青森駅開業等による観光客増加との相乗効果であるが、駅周辺施設とアスパムとを結ぶ最短ルートとして遊歩道が整備されたことも要因の一つと考えられる。今後は、ウォーターフロント活性化の新たな取り組みが行われていることなどから概ね数年後には目標が達成されると見込まれる。
	指標2	（八甲田丸入場者数）　80	千人/年	○	●			H23の入場者数は99千人に達し目標値を上回った。要因としては、東北新幹線新青森駅開業による効果や新たにオープンしたワ・ラッセなどの周辺施設等の影響で、本港地区全体に多くの人が訪れていることがあげられる。
	指標3							

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）の効果発現状況	指標		単位	達成度	達成見込みの有無			効果発現要因
					達成	達成見込み	未達成	総合所見
	その他の指標1		割合					
	その他の指標2		%					
	その他の指標3		割合					

4）定量的に表現できない定性的な効果発現状況	振興促進事業において、平成23年度に「青森市ウォーターフロント活性化ビジョン」を策定し、そのなかにおいて、『冬期間の利用促進』や『「アート・文化」などを活用した新たな魅力の発掘』等を取り組むことでウォーターフロントの新たな魅力を引き出し、通年で市民に親しまれ、観光客が楽しめる空間づくり図ることとした。それを踏まえ、平成24年度からはウォーターフロント地区における新たな取り組みとして、「八甲田丸を活用した市民劇の実施」や「ウォーターフロント地区における青森冬まつりの開催」等といった新たな取り組みが官民一体となって行われている。

注　1　みなと振興計画の申請時に策定した目標及び指標について記載する。
2　達成度とは、以下の評価の基準に沿って、記入する。
評価値が目標値を上回った場合は「○」
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合「△」
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合「×」
3　数値目標を達成している（評価値が目標値を上回った）場合は、「達成」に●
現時点で数値目標を達成していない（達成度が△もしくは×）が、その要因が外部要因によるものが大きいことが合理的かつ客観的に確認され、1～2年内に所要の目標が達成される見込みがある場合は、「達成見込み」に●
上記以外は、「未達成」に●

みなと振興計画の目標及び計画期間

港湾名	青森港	地区名	本港地区	計画期間	平成 19 年度 ～ 平成 23 年度

事業主体	青森県	青森市	

計画名称	青森港　文化観光交流拠点のみなとオアシスづくり支援事業

目標

青森港のウォーターフロント地区は中心市街地に隣接している全国でも珍しいエリアであり、青函緑地や青い海公園、旅客船バースを中心とした整備を行ってきたところである。

青森市では、平成22年度の新幹線開業を見据え、まちとみなとの融合による歴史・文化・観光交流空間整備を行う予定であり、この施設は、青い海公園と青函緑地の間に位置しており、臨港地区内への整備予定となっている。

本事業は、八甲田丸を中心として認定されている「みなとオアシス」の支援事業として、本港地区に点在する交流施設において、青函緑地・青い海公園・青森駅間の連携・回遊性を強化するため、護岸の改良及び遊歩道の整備を行い、本港地区の一体的な導線を確保し、周辺地域の交流人口拡大を図るとともに、文化観光交流拠点として賑わい空間の創出を図り、住民・観光客が親しみやすいみなとづくりを促進するものである。

目標設定の根拠

みなと振興の経緯及び現況

本州の北端に位置する青森県並びに青森市の歴史文化は、明治から昭和にかけて我が国の産業経済の発展を支えてきた、本州と北海道を繋ぐ大動脈であった青函連絡船をはじめとして、八甲田丸や周辺地区は交流拠点都市として発展してきた歴史を語る貴重な交流遺産である。

このような背景のもと、本港地区は、全国でも有数の中心市街地に隣接したウオーターフロント地区として、緑地や耐震強化岸壁である旅客船バースを中心とした整備が進められている。

平成18年7月に八甲田丸を中心としたエリアが「みなとオアシス」に認定されたことから、その支援事業として、この地区に点在する交流施設の連携・回遊性を強化するため、現在、導線が確保されていない青函緑地と青い海公園間において、老朽化した護岸の改良及び海沿いの遊歩道を整備するとともに、交流空間としての景観性に配慮し、周辺地域の交流人口拡大を図るとともに、文化観光交流拠点としての創出をはかり、住民・観光客が親しみやすい、みなとづくりを促進するものである。

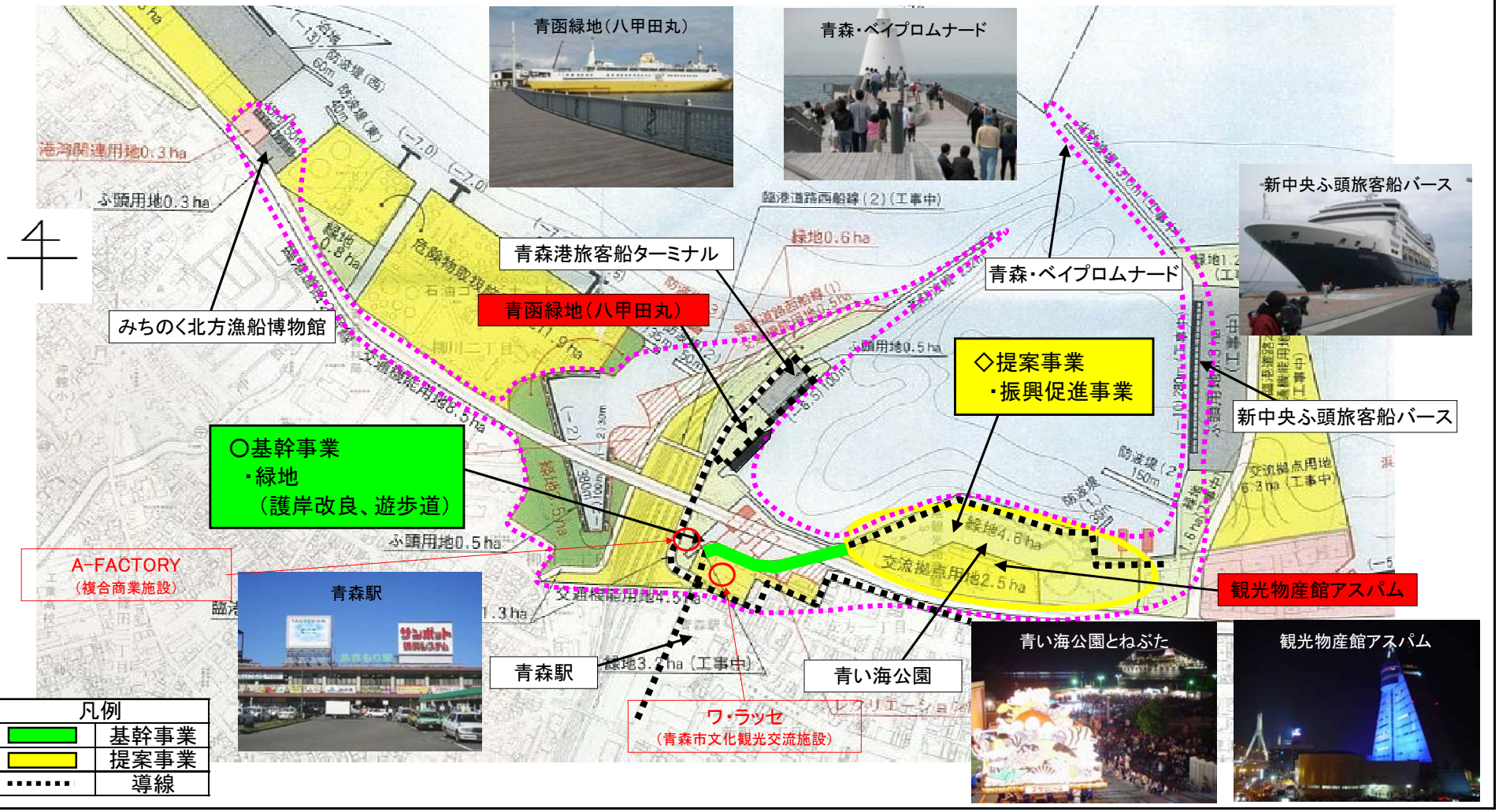
平成22年度には新幹線開業が予定されており、新幹線効果を最大限に享受するための“みなとづくり”の取り組みは多岐に渡り、相乗効果は非常に大きなものを見込めるものである。

課題

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
アスパムの入場者数	千人/年	過去の実績より設定する入場者数を目標として賑わいを図る	事業実施により、周辺交流施設の更なる交流を図ることにより、客数の減少に歯止めを掛け、最近5カ年の平均値程度の水準を目標とし達成をめざす。	1,100	H17	1,400	H23
八甲田丸の入場者数	千人/年	過去の実績より設定する入場者数を目標として賑わいを図る	事業実施により、周辺交流施設の更なる交流を図ることにより、客数の減少に歯止めを掛け、最近5カ年の平均値程度の水準を目標とし達成をめざす。	63	H17	80	H23

青森港本港地区（青森県青森市）　「青森港　文化観光交流拠点のみなとオアシスづくり支援事業」

計画の概要	青森港のウォーターフロント地区は中心市街地に隣接している全国でも珍しいエリアであり、青函緑地（八甲田丸係留）や青い海公園、旅客船バースを中心とした整備が進められている。 これら港内に点在する交流施設及び青森駅間の連携・回遊性を強化するため、護岸及び遊歩道の整備を行い、本港地区の一体的な導線を確保し、周辺地域の交流人口拡大を図るとともに、文化観光交流拠点として賑わい空間の創出を図り、住民・観光客が親しみやすいみなとづくりを促進するものである。

目標	●周辺地域の交流人口拡大 ●住民・観光客が親しみやすいみなとづくり	代表的な指標	アスパムの入場者数（千人/年）	1,100	（17年度）	→	1,400　（23年度）
			八甲田丸の入場者数（千人/年）	63	（17年度）	→	80　（23年度）